

## 第3章 第1期実施計画期間に実施した 子ども読書環境整備の評価

第1期の実実施計画期間中に推進連絡協議会やワーキンググループ会議において、委員ひとりひとりが事業の調整や振り返り、評価の検討などに取り組んできました。財政状況が厳しい中、市民と関係機関・関係部局がそれぞれのリソースを活かした取り組みを行い、年度ごとに事業の振り返りを報告書として集約および公表し、その実績を4年間にわたり情報として蓄積することができました。その内容を総合的に成果と課題として文章化するとともに、おもに3種類の指標にしたがって評価を行いました。(P. 7～24)

### 主な成果

第1期実施計画期間には、市民同士、行政同士あるいは行政と市民がそれぞれに新しいつながりを持ち、事業に取り組みました。また読書や資料提供を主な業務としていない様々な部局、団体が業務や活動に読書に関連するテーマを取り入れたり、業務の中に子ども読書事業を明確に位置付けるなど、豊中市における活動の広がりが明確になりました。これは基本理念の中にある成長や発達に応じて読書に親しむ機会の提供、あるいは地域社会での連携ということに深くつながり、第1期の大きな成果の一つと言えます。

例えばワーキンググループのメンバーでもある保育士からは、4年を振り返ると読書に関する意識が高まり絵本の選び方が変わったなど、あらためて子どもに関わる専門職が業務の中に読書や絵本を位置づけ、読書活動について再考し、取り組むきっかけとなっている様子がうかがえます。これらはすべて子ども読書活動をそれぞれの事業とし、子育て支援や地域の課題解決に向けて取り組んだ成果とも言えるのではないのでしょうか。

### 主な課題

アンケート結果からは、小学校高学年から中学生にかけて、年齢が上がるにつれて読書から離れていく傾向が見受けられます。身近な施設の読書環境整備やPRをおこなうとともに、自主的な読書活動を大切にしながらも、本にふれる機会を設ける必要があります。携帯やゲームなど様々なメディアに囲まれる中、時代に即した読書の在り方を探ることが第2期の課題の一つとなります。また学習活動に必要な情報提供の充実をはかるため、全校的に教諭と学校図書館司書が連携して学校図書館を授業に活かす取り組みをすすめていくことが重要です。

乳幼児の保護者に対しては子育てサロンやサークル、子育て支援センターでの読書の楽しさを伝える取り組みが増加する一方で、そこに出てこれない親子への支援や保護者への多様な情報提供が必要です。また図書館をはじめとして子どもに関わる施設が、PRを行い、ハード、ソフト面で利用しやすい環境整備をすすめていくことが課題となります。

さらに、子どもに本を手渡す担い手の意識の調査から、学校図書館司書や市立図書館司書の中で「実施計画を意識しているができていない」という回答が4割を超えました。このことから、子どもと本をつなぐ現場での課題を探るとともに、市内の子ども読書活動の取り組みにつ

いての情報を専門職員に提供していくことが必要です。

これらの課題は個々の取り組みで完結するものではなく、年齢別にあるいは様々な場面で継続的な事業が不可欠となります。読書を子どもの育ちに欠かせないものの一つとして位置づけ、豊中のすべての子どもが読書を楽しむことができる環境づくりを目指して、その活動を上げていくこと、また担い手の意識を変え、広く市民に取り組みの内容を周知していくことが求められます。第1期の取り組みを通して築いてきた子ども読書活動のネットワークを活かしながら継続して取り組み、広く市民にも活動を上げていくことが、第2期実施計画策定にあたっての重要な課題となります。

## 1. 事業・ネットワーク・情報（ソフトウェア）

### （1）全体的な取り組み

実施計画では関係部局や関係機関、市民団体が広く関わり、組織間の調整を必要とする取り組みを「全体的な取り組み」としており、「子どもと本をつなぐ地域交流会」を実施するとともに「とよなかこども読書マップ」を作成しました。

#### ●「子どもと本をつなぐ地域交流会」の開催

子ども読書活動を行なうボランティアグループや子ども読書や子育て支援に関わる市民、関係機関・関係部局の職員との交流会を定期的に開催し、各地域でのネットワークづくりをすすめました。また地域での活動を活性化するため、その場を利用して情報交換や学習の機会としました。

「子どもと本をつなぐ地域交流会」の参加人数とテーマなど

	中部	南部	北部	東部	テーマ・状況
18年度	51(19)				学校図書館司書、保健師からの報告、参加者の活動の現状や課題の共有
19年度	56(11)	30(7)	65(9)		絵本やおはなしが届いていない子どもたちをイメージするワークショップ
20年度	23(7)	32(5)	35(9)	31(6)	「地域をみつめる」豊中市の白地図に参加者の活動の場を書きこむ作業を通して課題などを探る
21年度	35(9)	23(7)	31(6)	32(5)	居宅親子への支援や小学校高学年から中学生に対する取り組みなど、課題解決に向けてアイデアを出してもらう

( ) 内はワーキンググループ委員の参加人数

例えばこんな成果がありました

動く図書館の巡回先でボランティアによるおはなし会を実施する「あおぞらおはなし会」など、地域交流会を通して出されたアイデアをすぐに実施できた取り組みもありました。また会を重ねるごとに、子どもにかかわる多様な専門職（保育士・保健師、主任児童員、書店主など）の参加を得て議論が深まりました。

参加者のアンケートより：「連携をとっていくということの実践ができ、心強く思う。このつながりを地域支援の中にかかしていきたい」「子どもと本、人と人、地域に広がっていく夢をこめて幸せを感じました」「様々な機関の人たちと話し合えることはふだんの自分の活動をふりかえるという点でとても良かったなと思っています。」



あおぞらおはなし会



子どもと本をつなぐ 地域交流会

●「とよなかこども読書マップ」

子どもが身近なところで本に親しめるよう、市内で本が借りられるところや、おはなし会を実施している施設・場所等の情報を一元化したマップを発行・配布しました。また図書館のホームページ等にも掲載し、これらの情報を広く発信しました。今後は内容をより見やすいものとする他、必要な情報を必要としている市民に届けられるよう、配布先の選定も課題となっています。

発行頻度	年1回（平成20、21、22年度）
発行数	毎年 10,000 部
配布先	1歳6か月児健診会場、子育て支援センター、その他施設など

例えばこんな成果がありました

「マップに掲載されているおはなし会の案内を見て、おはなし会に参加してもらえました」「常に持ち歩いて情報提供として手渡しています」など、ワーキンググループの会議でマップについての意見がありました。

(2) 領域ごとの取り組み

子どもの年齢や生活の場に応じた具体的な取り組みを家庭・地域や地域の公共施設、保育所・幼稚園など、領域ごとに分けて実施計画に掲載したものです

	全体の事業数／(うち実施計画策定時の新規事業数)	18(2006)年度実施数／(うち新規事業数)	19(2007)年度実施数／(うち新規事業数)	20(2008)年度実施数／(うち新規事業数)	21(2009)年度実施数／(うち新規事業数)
1 家庭・地域	21／(7)	15／(3)	17／(1)	16／(1)	17／(1)
2 地域の公共施設	34／(9)	28／(5)	29／(2)	31／(1)	32／(0)
3 保育所(園)・幼稚園	23／(0)	23／(0)	23／(0)	22／(0)	22／(0)
4 学校	18／(2)	17／(2)	17／(0)	17／(0)	17／(0)
5 障害のある子どもや外国人の子ども	27／(11)	19／(3)	24／(6)	25／(0)	26／(2)
6 市立図書館	41／(12)	37／(7)	37／(2)	39／(1)	38／(0)
計	164／(41)	139／(20)	147／(11)	150／(3)	152／(3)

※事業名称、経年変化、評価指標などは領域ごとの取り組み一覧 (P.26～56) をご覧ください。また新規事業を実施した場合、実施年度の翌年より継続事業とみなします。

## ①家庭・地域における子ども読書活動の推進

### ●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

#### 成果

- ・家庭への情報提供 市立図書館が子育て支援・読書の場であることを伝える
- ・子ども向けのホームページをリニューアル、アクセス数増加
- ・小学1年生全員に図書館の利用案内を配布
- ・子育てサロンやサークルでの読み聞かせ、絵本講座の実施回数が増加
- ・子ども文庫が2ヵ所開庫、子どもが本を楽しんだりおはなし会に参加できる施設が増加

#### 例えばこんな成果がありました

子育てサロン・サークルの絵本講座に参加した親子より「1歳未満の赤ちゃんも絵本に興味津々、びっくりしました。」「絵本はこどもが小さく無理と思っていたが、親の方が楽しさを教えてもらった。これから親子で楽しみたい」といった声が聞かれ、講座に参加することで、絵本に親しみを感じている様子が見えてきます。

#### 課題

- ・読書に関する情報が市民に十分いきわたっておらず、新たな情報発信の在り方の検討が必要
- ・図書館が乳幼児とともに保護者等が気軽に立ち寄り、読書や子育て支援に関する情報を得る場であることの周知が不足しており、周知の徹底が必要
- ・サロンやサークルに来られない居宅の親子への支援が必要
- ・本を購入する市民も多いので書店との連携が必要
- ・それぞれの取り組みを充実するために情報交流の場が必要

### 第2期実施計画の施策イメージ

- ・様々なメディアでの情報提供 広報やケーブルテレビ、ホームページの活用およびコンテンツの充実
- ・公園、病院（小児科・産婦人科・耳鼻科・歯科）など保護者が立ち寄る身近な施設での情報提供
- ・本市へ転居されてきた方への情報提供

## ②地域の公共施設等における子ども読書活動の推進

### ●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

#### 成果

##### 子育て・子育て支援の場で

- ・豊中版ブックスタート「えほんはじめまして」は4か月児健診に参加する保護者に絵本の楽しさや情報提供の場として定着
- ・健診会場の絵本コーナーは待ち時間などに活用されている。
- ・身近な子育て支援施設で本の貸出し、おはなし会、保護者向け絵本講座を定期的実施

##### 直接子どもの通う施設で

- ・子どもの身近な公共施設における定期的なおはなし会の実施・図書コーナーの充実
- ・放課後子どもクラブへ図書館からの配本は41クラブ中39クラブに。おはなし会は32クラブで実施

#### 例えばこんな成果がありました

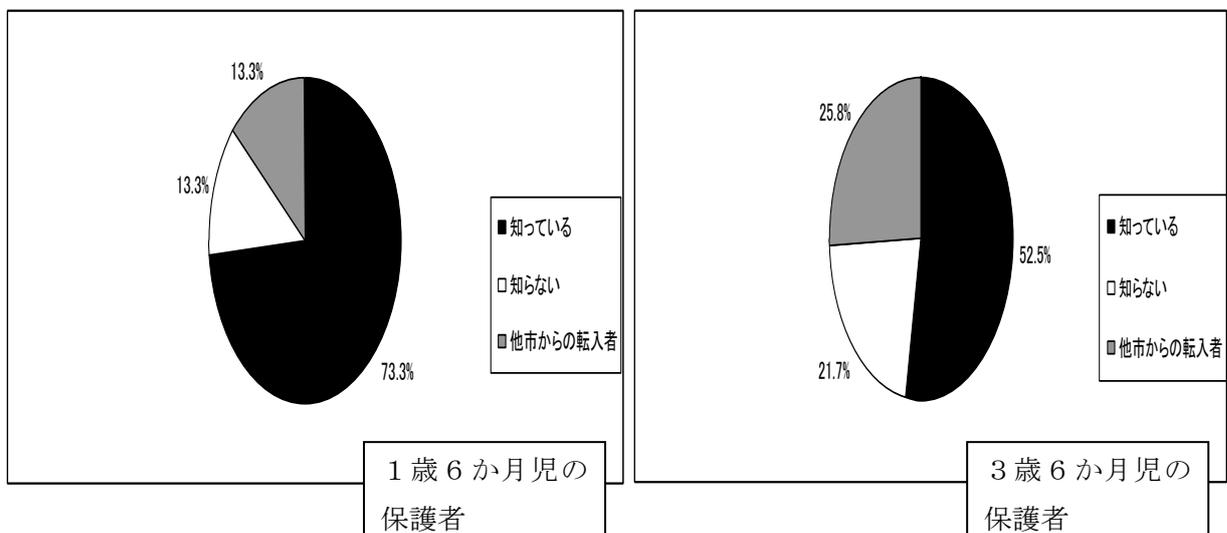
子育て支援センターや幼児教育支援センターたんぽぽでの行事に参加した親子より「読み聞かせの大切さを再確認でき、子どもに絵本をもっと読んでやろうという気持ちになった。」「家でも、おおきなかぶごっこをして繰り返し楽しんでいる」など、生活の中で絵本を楽しむ気持ちが高まったことがうかがえます。

#### 課題

- ・身近な施設において子どもが手にする資料の充実
- ・施設で活動するボランティアへの情報提供、交流の場のさらなる充実
- ・各施設間の情報共有がさらに必要

「えほんはじめまして」を知っていますか」に対する回答

(市内3保健センターで各年齢40人、合計240人に聞き取り調査を実施)



## 第2期実施計画の施策イメージ

- ・「えほんはじめまして」および関連事業の継続実施
- ・市立図書館と地域の公共施設との連携・協力（市立図書館の団体貸出制度による配本や選書の支援およびリサイクル図書の活用など）
- ・身近な施設で活動するボランティア講座の開催
- ・ボランティアへの団体貸出や情報提供、交流の場の提供

## ③保育所（園）・幼稚園における子ども読書活動の推進

### ●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

#### 成果

- ・絵本の貸出しや絵本コーナーの充実に向けて、各園で継続した取り組みの実施
- ・民間保育所（園）と私立幼稚園教職員向け絵本講座を平成19年度から実施。参加園数が増加傾向

例えばこんな成果がありました

保育所幼稚園教諭向けの絵本講座を実施後、市立図書館司書が参加者に聞き取りを行い、「講座に参加して、早速自園でミニ・コーナーを作った。園の絵本の購入に役立った。子どもに読む本の選択やよみ方が変わった」といったご意見をいただきました。

#### 課題

- ・保育所（園）・幼稚園での資料の充実をはじめとした読書環境整備が必要（市立図書館からの団体貸出制度の周知が不足）
- ・市立図書館から保育所（園）・幼稚園に対しての団体貸出用資料の予算確保
- ・保育所（園）・幼稚園教職員向けに対して、子どもの読書に関する多様な情報提供が必要
- ・保育所（園）・幼稚園を利用する保護者に対して、子どもの読書に関する多様な情報提供が必要
- ・保育所（園）・幼稚園間の情報共有

## 第2期実施計画の施策イメージ

- ・保育所（園）・幼稚園での図書資料の充実（市立図書館からの団体貸出制度の周知およびより利用しやすい方法の検討）
- ・保育所（園）・幼稚園教職員向けの研修会実施
- ・保育所（園）や幼稚園を利用する保護者への情報提供、おたよりでの絵本の紹介や講座の開催

- ・在所（園）および地域の子どもと保護者へのおはなし会の実施、絵本の貸出し
- ・保育所（園）幼稚園でのボランティア活動の支援
- ・保育所（園）・幼稚園での青少年ボランティアの受け入れ

#### ④学校における子ども読書活動の推進

##### ●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

###### 成果

- ・学校司書の全校配置（平成17年度）とともに、任期付短時間勤務職員制度の導入（平成19年度）により、学校図書館の開館時間を延長し、すべての学校で本を楽しむ環境整備の実施
- ・学校図書館司書による子どもたちの主体的な読書を促し、読む意欲に応える様々な取り組みの実施
- ・担当教職員を対象とした研修会および情報交換の場の継続実施
- ・図書購入予算の増加
- ・「朝の読書」の設定やボランティアによるおはなし会の実施
- ・中高生が保育所や小学校で読み聞かせボランティアとして活動、絵本の楽しさを共有する取り組みの継続
- ・学校図書館における障害のある子どもや外国人の子どもへの読書支援

###### 例えばこんな成果がありました

###### <読書活動の推進>

小学校＝図書委員の「おはなし会」に参加した低学年の児童が自主的に「おはなし会」を企画した。高学年の児童も低学年を応援する気持ちでおはなし会に参加し、お話を楽しんでいた。

中学校＝読み聞かせについて学習し、地域の幼稚園でおはなし会を実施した。これまでに受け手としての経験は多く積んできたが、初めて送り手としてより深く絵本と関わった。年少者に接することで地域の一員として自覚が持て、また生涯学習の一步になったように感じた。

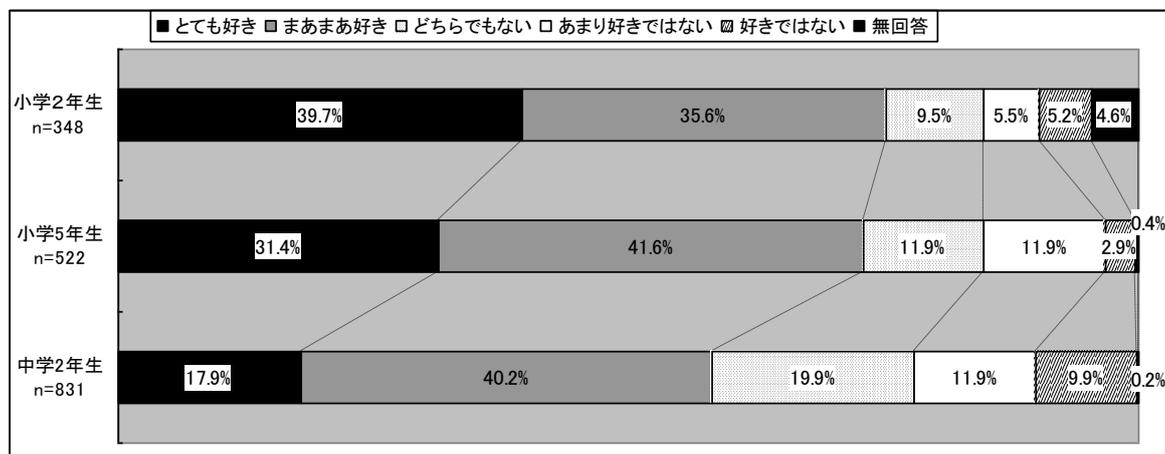
###### 課題

- ・図書館を活かした取り組みの全校での実施
- ・学校図書館を利用しやすい環境づくり 学校図書館改修整備、蔵書管理システムの導入
- ・小中学校の連携した取組み キャリア教育や生涯学習の視点
- ・小学校高学年から中学生にかけて読書から離れていく傾向があり、新たな取り組みが必要

- ・学校図書館と市立図書館との連携 情報交流と連携による読書活動の活性化
- ・乳幼児期の保護者と比較して、小中学生の保護者への読書に関する情報提供が少ないことから、新たな情報提供の方法を検討することが必要
- ・新教育指導要領のカリキュラム変更により、「朝の読書」などの読書に関する時間確保が困難となる可能性がある

「本を読むことが好きですか」に対する小中学生の回答

市内3地域（北部・中部・南部）のエリアごとに市立図書館から遠い小・中学校1校ずつ抽出し、全6小学校、6中学校の小学2年生、5年生、中学2年生を対象に調査。サンプル数は小学2年生348人、5年生522人、中学2年生831人。



第2期実施計画の施策イメージ

- ・授業をはじめとした学校教育活動において読書を位置づける取り組み
- ・主体的な読書につながる子どもへの取り組み 読書に関する情報を提供する仕組みづくりや多様なメディアの活用
- ・学校・市立図書館連絡会の実施、学校図書館司書、学校図書館担当者と市立図書館の情報交流
- ・学校図書館・市立図書館間の資料運搬システムの効果的運用
- ・授業における学校図書館の効果的な活用などに関する研修
- ・保護者に対して読書の大切さを伝える取り組み
- ・中高生のボランティア活動の支援
- ・学校、市立図書館、読み聞かせボランティアが情報交流する取り組み
- ・乳幼児期からの長期的な取り組み

## ⑤障害のある子どもや外国人の子どもなどの読書活動の推進

### ●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

#### 成果

- ・障害のある子どもが通う施設や支援学校での環境整備を継続して実施
- ・市立図書館による動く図書館の巡回、出前おはなし会の実施
- ・図書館見学の実施により、保護者が図書館を利用するきっかけづくり
- ・入院中の子どもを対象とした市立豊中病院内でのボランティアによるおはなし会、小児病棟への絵本の長期貸出
- ・市立豊中病院・小児科待合室でのリサイクル図書の活用
- ・外国人親子への支援
- ・ボランティアと連携し、外国語のおはなし会、図書館見学、「おやこでにほんご」の実施
- ・外国語の蔵書の充実、外国語絵本の寄贈募集、言語別絵本リストおよび他言語の図書館利用案内作成

#### 例えばこんな成果がありました

「市立豊中病院小児病棟でのおはなし会」  
活動されているおはなしボランティアの方より「気分転換になったと言われた」「つきそいの方がほっとしたと喜んでくださる」「こういうボランティアがあることを知らなかった」との報告がありました。病院の中でおはなし会がほっとできる場になっていることがうかがえます。

#### 課題

- ・障害のある子どもや保護者、外国人の親子へ情報がいきわたっていない
- ・障害のある子どもや外国人の子どもに有効な資料が不足している
- ・障害のある子どもの保護者から図書館に来館しにくいという声がある
- ・外国人の保護者が情報を得たり、安心してすごせる場所が必要

### 第2期実施計画の施策イメージ

- ・誰もが気軽に図書館に来館してもらえるきっかけづくり（図書館見学や利用案内の実施など）
- ・身近な施設での情報提供（外国人登録窓口やとよなか国際交流協会などで多言語の図書館利用案内の配布など）
- ・おはなし会の実施
- ・ボランティアの支援、活動しやすい環境整備
- ・障害児通園施設および支援学校への動く図書館の巡回
- ・資料の充実（外国語や点字、音訳図書、布の絵本など）や障害のある子どもや外国人の子どもに有効な資料の研究

## ⑥市立図書館における子ども読書活動の推進

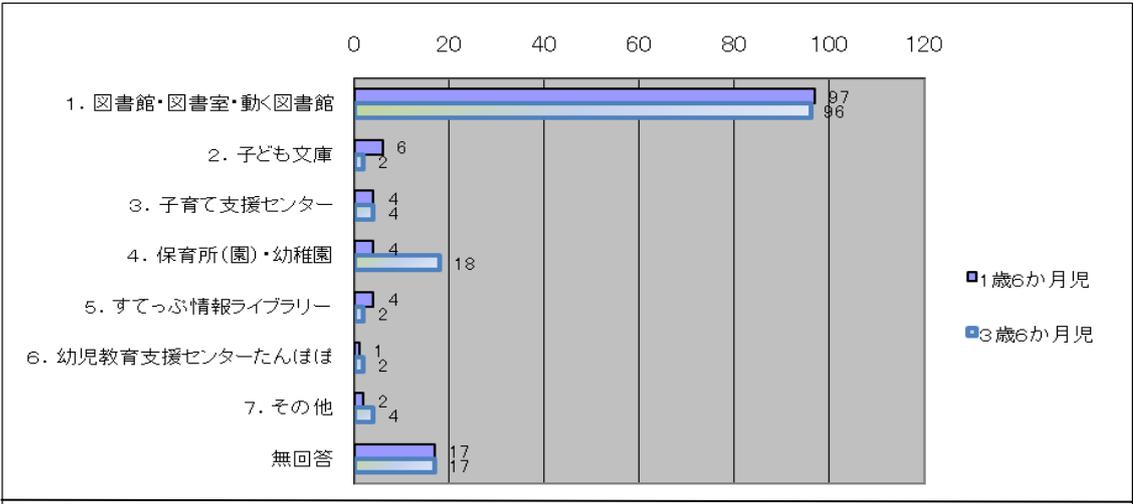
### ●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

#### 成果

- ・平成15年（2003年）より市立保健センター・市民との協働による4か月児健診時の「えほんはじめまして」の取り組みを実施、さらにそのフォロー事業として図書館で月齢ごとの乳幼児向けおはなし会を実施し、参加人数が増加。
- ・職員が子育てサロンやサークル、子育て支援センター等に出向き、おはなし会や講座を実施。
- ・保育所（園）、幼稚園の読書推進事業の支援、団体貸出、リサイクル図書の譲渡
- ・民間保育所（園）訪問、必要なサービスの把握
- ・学校図書館との連携・協力および情報共有
- ・学校での読み聞かせボランティア向け講座の実施、資料や情報提供の継続実施
- ・千里図書館でのYAサービス※の拡充
- ・子ども向けホームページのリニューアルによりアクセス数が増加
- ・市民団体との共催・協力による様々な事業の継続実施

※YAサービス：ヤングアダルトサービス。10代の若者を対象とする図書館サービスの一つ。

「身近に本を借りたり、おはなし会を行なっている場所があるのをご存じですか。」  
 （市内3保健センターで各年齢40人、合計240人に聞き取り調査を実施）



### 例えばこんな成果がありました

乳幼児と保護者に楽しみながら読書の大切さを感じてもらおう取り組み「えほんにたち」の参加者からは「家にある本も読み方や印象が全く違って面白かったです」「赤ちゃんだからわからないかもしれないと思っていましたが、これからは本や手遊び等してあげたいと思いました。」「いつも利用させてもらってるのですが、子どもが泣くと、うしろめたい気持ちでした。今日、お話をきいて良かったです。大人の本だけじゃなく、子どもの本もどんどんかりようと思います。ありがとうございました！！」の声をいただいています。この機会が赤ちゃん絵本を家庭で楽しむきっかけになっているようです。

### 課題

- ・図書館などの施設を利用していない保護者や子どもへ情報が届きにくい現状（小児科医院など身近な施設での情報提供ができていない）
- ・小学校高学年から高校生にかけての読書離れ
- ・児童書など資料の充実
- ・図書館から離れた地域の子どもと保護者への支援および施設との連携
- ・市立図書館から各施設への団体貸出制度の周知および柔軟な対応
- ・地域の子どもに関わる様々な施設を支援するための資料の確保
- ・障害のある子どもや外国人の子どもへの支援

### 第2期実施計画の施策イメージ

- ・ホームページなど様々なメディアを利用した情報提供
- ・小児科などの医院と連携した、保護者への子ども読書に関する情報提供
- ・学校図書館を活用した教育活動の支援
- ・中高生に向けての図書館PR
- ・保育所や幼稚園、放課後こどもクラブなど子どもに関わる施設への資料、情報の提供
- ・ボランティア講座を実施し、交流の場を提供するなど、子どもと本をつなぐ活動に関わる市民への支援
- ・市立図書館における蔵書検索システムの研究（英語以外の言語）
- ・市立図書館の配架やサインの見直し、多言語の利用案内の整備
- ・障害のある子どもや外国人の子どもを取り巻く状況など、多様な子どもの状況を共有するための市民向け啓発事業や職員研修の実施



## 2. 読書に関わる施設と資料（ハードウェア）

### 子どもの読書に関わる施設の状況

施設等	施設数	対象の子どもの数		蔵書数	図書館からの借受冊数
図書館	11	68,418	18歳以下の人口	338,664	
小学校	42	22,211		687,857	39,802
中学校	21	10,649		(平成19年度)	10,006
保育所（園）	49	4,650		61,779	27,009
通園施設	2	2,967		2,967	2,266
幼稚園	41	7,298		30,639	2,618
支援学校	2	264		3,860	4,176
高等学校	9	8,880		355,110	581
幼児教育支援センターたんぽぽ	1	20,993	就学前児童数	834	20
少年文化館	2			11,783	63
子育て支援センター	8	20,993	就学前児童数		726
放課後こどもクラブ	41	2,411		11,498	12,706
人権まちづくりセンター	2			2,929	1,541
とよなか男女共同参画推進センター すてっぴ	1			18,712	8
とよなか国際交流協会	1			100	364
保健センター	3			238	238
市立豊中病院 小児病棟	1			150	150
子育てサロン（社会福祉協議会）	38				
子ども文庫	13			10,630	5930

※数値は平成22年（2010年）4月現在、および平成21年度実績。

斜線は不特定多数の子どもを対象としている場合

### 第1期実施計画期間内の資料に関する状況

#### ① 市立図書館 児童書蔵書冊数

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
児童書蔵書冊数	330,600	330,389	333,295	336,693	338,664

②おはなしボランティアへの貸出冊数

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
団体貸出数	161,259	122,212	118,197	109,792	113,724

③学校図書館 蔵書冊数

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
学校図書館 蔵書冊数（小 中学校合計）	634,697	663,146	687,857	662,541 （3校未集計）	695,626 （1校未集計）

④学校図書館図書標準達成率 ※

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
小学校	データなし	51.2%	61.0%	データなし	データなし
中学校	データなし	55.6%	66.7%	データなし	データなし

※公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定められたもの

⑤保育所・幼稚園ほか 蔵書冊数

	平成 17 年度	平成 21 年度
民間および市立保育所	50,902	61,779
私立および市立幼稚園	14,700	30,639
幼児教育支援センターたんぽぽ	700	834

⑥他の施設 蔵書数

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
とよなか男女共 同参画推進セン ター すてっぴ	14,815	16,223	17,583	18,112	18,712

●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

**成果**

- ・保育所や幼稚園、学校など、身近な施設での読書環境の充実
- ・子どもに本を届けるボランティアの活動が定着

**課題**

- ・各学校、施設への資料面での支援や情報提供

**第2期実施計画の施策イメージ**

- ・市立図書館による団体貸出制度の周知、および活用
- ・市立図書館の資料の充実および団体リサイクル図書および寄贈図書の活用

### 3. 子どもに本を手渡す専門職員、その他担い手の意識 (ヒューマンウエア)

(1) 子どもに本を手渡す専門職員 市立図書館司書へのアンケート調査結果より 市立図書館でははなし会など、子ども読書活動に関わっている職員 61 名にアンケート調査を実施しました。

#### ●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

##### 成果

- ・ 61人中57人が日常の業務として絵本などの読み聞かせを行っているほか、実施計画に子育てサロンやサークルでの取り組みが盛り込まれたことから、61人中34人が講座での取り組みに関わっている。
- ・ 61人中46人の職員が保育所や幼稚園での環境整備の必要性を認識しており、市立図書館が民間保育所(園)への聞き取りを実施したことや連携が深まったことが要因と考えられる。
- ・ 図書館へ来館しない親子への情報提供を含めて、図書館や子どもの読書に関する情報提供を61人中46人の職員が重要視している。

##### 課題

- ・ 絵本などの読み聞かせや講座などについては業務で行っている職員が全体の半数を超えているが、一方で小・中学生に有効な取り組みであるブックトークは3割程度、ボランティア講座の講師については2割以下となっており、今後の研修体制が課題となる。
- ・ 計画を視野に入れて取り組んでいる職員が24人(39.3%)、意識しているができていない職員が25人(40.9%)となっている。

	実施計画を視野にいれた業務に取り組んでいる	意識しているができていない	特に意識していない
市立図書館職員	39.3% (24人)	40.9% (25人)	19.6% (12人)

#### 第2期実施計画の施策イメージ

- ・ 市立図書館内での子ども読書活動に関する情報共有
- ・ 子ども読書活動に関する図書館からの情報発信
- ・ 保育所・幼稚園での読書環境整備、市立図書館との連携・支援

(2)子どもに本を手渡す専門職員 学校図書館司書へのアンケート調査結果より

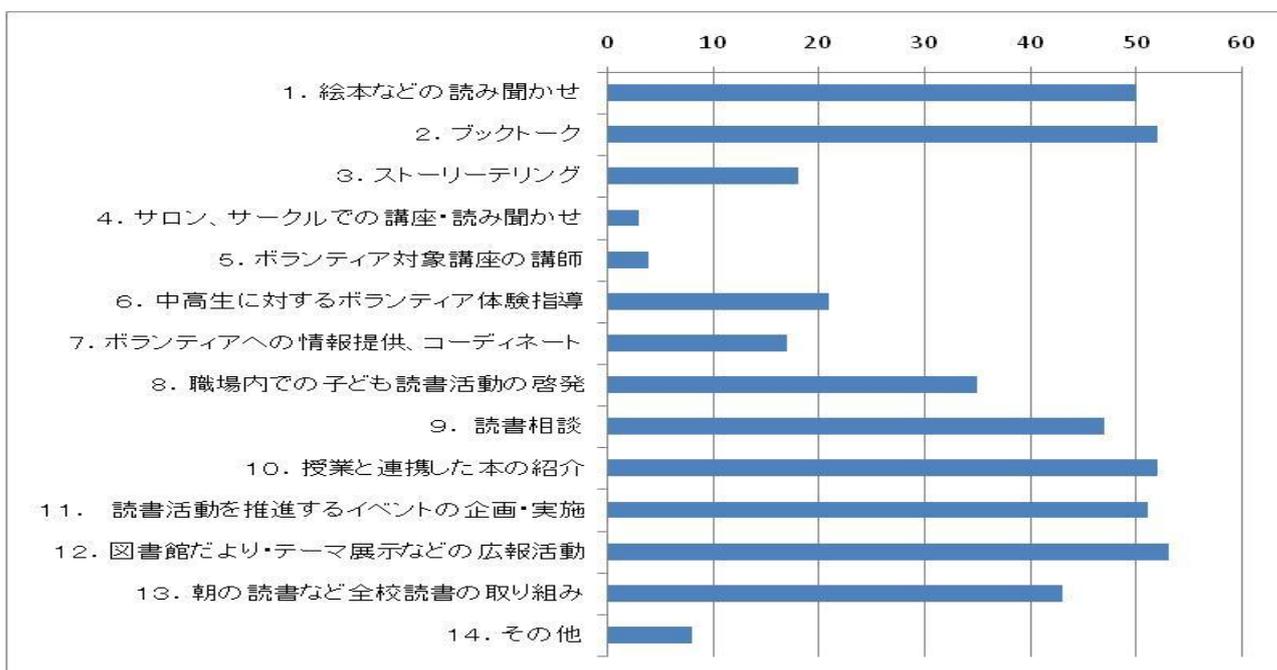
●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

学校図書館司書59名にアンケート調査を実施しました。

**成果**

- ・4年以上子ども読書の業務に関わっている職員が全体の9割を占め、専門職としての蓄積を業務に発揮している。
- ・多くの学校図書館司書で、授業と連携した本の紹介や、図書館だより・テーマ展示などの広報活動など、学校での幅広い子ども読書活動に関わっている。

これまでに業務の中で行った内容について



目盛の数値は人数。あてはまるものすべてをあげる複数回答の結果です。

**課題**

- ・回答者51名のうち47名が今後取り組むべき課題として「資料の充実」をあげており、学校図書館での蔵書の充実および活用が課題となる。
- ・推進計画を意識しているができていない職員が全体の過半数をしめており、実施困難となっている原因を確認することが今後の課題となる。

実施計画を視野にいれた業務に取り組んでいる	実施計画を視野にいれた業務に取り組んでいる	意識しているができていない	特に意識していない
学校図書館司書	29. 1% (16人)	52. 7% (29人)	12. 7% (7人)

## 第2期実施計画の施策イメージ

- ・学校図書館および市立図書館での資料の充実
- ・学校での「豊中市子ども読書活動推進計画」に関する情報共有

(3)子どもに本を手渡す担い手の意識 地域交流会参加者へのアンケートへのアンケート調査結果より

### ●第1期実施計画の取り組みの成果と課題

#### 成果

- ・「子どもと本をつなぐ地域交流会」参加者では60%以上の方が推進計画を認知している
- ・アンケートの回答からも子どもの身近な施設の読書環境整備を重要視する回答が寄せられており推進計画の趣旨が浸透していることがうかがえる。

「子どもと本をつなぐ地域交流会」におけるアンケート調査より

	中部	南部	北部	東部
アンケート数	20	10	24	24
推進計画の認知度	85%	60%	62%	58%

#### 課題

- ・交流会参加者以外の市民も含めた子ども読書活動推進計画の認知度の向上
- ・保育所・幼稚園での読書環境整備

## 第2期実施計画の施策イメージ

- ・子ども読書に関わるボランティアへの情報提供
- ・子どもの身近な施設での読書環境整備